

造船所向け*

船舶IoTデータ 利活用

に関するセミナー

本セミナーでは、造船所のニーズに応える最新情報として、性能解析ソリューション、気象海象情報の活用事例、及びIoTサービスを利用するための共通インフラとなる船陸通信及び船上データ収集装置について、多数の関係各社より講演を行います。また、新スマートナビゲーションシステム研究会からは関連技術の国際標準化（ISO化）に向けた取り組み、ShipDCからは船舶IoTデータ利活用基盤「IoTオープンプラットフォーム」を紹介します。

申込方法：下記URLのHPよりお申し込み下さい。

http://www.shipdatacenter.com/loS_seminar.html



受付開始：9月26日(水)

皆さまのご来場をお待ちしています。

※会場の都合により造船所に参加を限定させていただきます。

1

東京

会場

開催日時：2018年10月17日(水) 13:00～16:00 (12:00 受付開始)

会場：都道府県会館 (東京都千代田区平河町 2-6-3 都道府県会館 4階)

<http://www.tkai.jp/information/tabid/84/Default.aspx>

定員：70名 ※開演前や休憩時間に見学頂ける船用工業や ShipDC 等の展示 / デモがございます。(東京会場のみ)



2

今治

会場

開催日時：2018年10月25日(木) 10:00～12:30 (9:30 受付開始)

会場：今治国際ホテル (愛媛県今治市旭町 2-3-4)

<https://www.imabari-kokusai-hotel.co.jp/access/>

定員：100名



主催：株式会社シップデータセンター／一般社団法人日本船用工業会 新スマートナビゲーションシステム研究会
協力：一般社団法人日本船主協会

問合せ先：株式会社シップデータセンター IoT-OP コンソーシアム事務局 (担当：森谷・権藤)

TEL: 03-5226-2261 e-mail: consortium@shipdatacenter.com

講演内容のご紹介は裏面へ →



オープニング
Opening

日本郵船株式会社 工務グループ グループ長代理 山本 泰 氏

講演 1 船舶 IoT 利活用基盤 loS-OP(Internet of Ships Open Platform) の取り組み

「船舶 IoT 利活用基盤 loS-OP(Internet of Ships Open Platform) の取り組み」



株式会社シップデータセンター
代表取締役社長

池田 靖弘



就航した船舶が実海域でどのように運航されているかをデータで把握することは、造船所にとって大いに価値があります。一方、造船所が単独でデータを取得する仕組みを搭載し維持するには、煩雑な契約と多大な費用が発生します。本講演では、これらの課題を解決しうる loS-OP についてご紹介します。

<http://www.shipdatacenter.com/>

講演 2 性能解析ソリューション

「運航データを用いた実海域の船舶性能評価と設計へのフィードバック最新動向」



NAPA Japan 株式会社
代表取締役社長

水谷 直樹 氏



近年、運航ビッグデータを利用して本船の運航状態や実海域性能を把握し、将来の新設計へ役立てようという造船会社が増えてきました。本講演では、運航ビッグデータ活用における業界の最新動向、性能評価及び設計へのフィードバックの取組み事例のご紹介と、将来の loS-OP の可能性について述べたいと思います。

<https://www.napa.fi>

講演 3 気象海象情報の活用

「実海域航行中の遭遇海象の提供とその活用事例」



一般財団法人日本気象協会
事業本部
防災ソリューション事業部
営業課 技師

佐藤 淑子 氏



船舶 IoT データ利活用が進む中で、実際船舶が遭遇した海象情報は、実運航性能評価、運航（操船）評価等に欠かせない情報です。しかしながら、遭遇海象の正確なモニタリングは、様々な要因により現状では困難な状況にあります。これを補うことの出来る波浪推算データベースとその活用事例を紹介いたします。

<https://www.jwa.or.jp/service-business/service/44.html>

講演 4 船陸通信の紹介

「船陸間通信の最新情報」



日本無線株式会社
マリンシステム事業部
情報ビジネス技術部
船用ネットワークグループ
担当部長

村田 哲也 氏



今後の船陸間通信の発展に重要なインマルサット FX システム、インマルサット FX システムに対応したインマルサット Global Xpress 船舶用衛星通信端末 JUE-60GX ならびスパー JSAT 社が提供する Ocean BB Plus についてご説明します。これらの機器は NK シップデータセンターの屋上に設置され試験運用が可能になっている機材です。

<https://www.jrc.co.jp/jp/product/lineup/jue60gx/>

講演 5 船上データ収集装置の紹介

「船上データ収集装置の導入事例と Terasaki Marine Information Platform のご紹介」



寺崎電気産業株式会社
システム事業
海洋技術部
主務

森本 峰行 氏



収集したデータを有効活用することで機関プラントの停止回数低減、運航時のエネルギー効率の向上、さらにメンテナンスコストの低減など、幅広く海事産業の発展に貢献できるものと考えています。今回は、船内の離れた場所にある多様な機器のデータ収集、および情報の共有・検知を可能とする船上データ収集装置をご紹介します。

<http://www.terasaki.co.jp/>

講演 6 関連する技術の国際標準化（ISO 化）に向けた取り組み

「日本発の船舶 IoT に関連する新たな国際標準規格の紹介」



一般社団法人日本船用工業会
新スマートナビゲーションシステム研究会
座長
(株式会社 MTI)

安藤 英幸 氏



50 社が参加した「新スマートナビゲーションシステム研究会」にて、船内の異なる機器に係る情報統合を可能にする船内・船陸間情報インフラを世界に先駆けて構築するため作成した国際規格案が、この度 ISO 規格化されることが決定しました。本規格の制定により、海事分野でのデータ活用が促進されることが期待されます。本講演ではデータを取得し易い船舶に向けた標準技術の価値を紹介します。

<http://www.jsmea.or.jp/ssap/jp/>



クロージング
Closing

loS-OP コンソーシアム 議長 (株式会社商船三井 専務執行役員 技術革新本部長) 川越 美一 氏

オープニング
Opening

株式会社商船三井 技術革新本部 スマート SHIPPING 推進部 部長 藤井 仁 氏

講演 1 性能解析ソリューション

「実海域航行データを用いた航行状態シミュレーションの高精度化」

株式会社三井造船昭島研究所
事業統括部
マリンシステム部
部長

三好 晋太郎 氏



実海域を航行する就航船舶のデータが容易に得られる様になりつつあります。しかし収録データそのままだでは、船型開発に有効に活用することは難しいのが現実です。そこで就航船舶のデータを、実海域での航行状態を考慮した船型開発への活用方法の一例を紹介します。

<https://www.mes.co.jp/Akiken/index-j.html>

講演 2 気象海象情報の活用

「実海域航行中の遭遇海象の提供とその活用事例」

一般財団法人日本気象協会
事業本部
防災ソリューション事業部
営業課 技師

佐藤 淑子 氏



船舶 IoT データ利活用が進む中で、実際船舶が遭遇した海象情報は、実運航性能評価、運航（操船）評価等に欠かせない情報です。しかしながら、遭遇海象の正確なモニタリングは、様々な要因により現状では困難な状況にあります。これを補うことの出来る波浪推算データベースとその活用事例を紹介します。

<https://www.jwa.or.jp/service-business/service/44.html>

講演 3 船陸通信の紹介

「OceanBB plus サービスのご紹介」

スカパー JSAT 株式会社
グローバル事業本部
モバイル事業部
部長代行

下間 健市 氏



ハイスループット衛星を導入した、次世代型の船舶向けインターネット接続サービスである OceanBB plus は、従来サービスを格段に上回る最大通信速度を実現し、船舶の IoT 化にともなう船陸間データ通信の増大をサポートします。

https://www.jsat.net/jp/satellite/oceanbb_plus/index.html

講演 4 船上データ収集装置の紹介

「データ収集の手間を著しく低減させる、ISO19847/19848 対応 BEMAC 船上 IoT データサーバの紹介」

渦潮電機株式会社
IT イノバグループ
主幹

川崎 裕之 氏



新スマートナビゲーションシステム研究会の取組みにて国際標準化された ISO19847/19848 に対応した BEMAC 船上 IoT データサーバを紹介いたします。本装置は、各種船上機器からデータを収集・保存し、Ship DC 並びに船上アプリケーションへ任意に保存データを送信する機能を有しており、堅牢性や安定性に加えて、柔軟性も高く、従来よりもデータ収集が容易になる事が特長となります。

<http://www.bemac-uzushio.com/>

講演 5 船上データ収集装置の紹介

「日本発の船舶 IoT に関連する新たな国際標準規格の紹介」

一般社団法人日本船用工業会
新スマートナビゲーションシステム研究会
座長
(株式会社 MTI)

安藤 英幸 氏



50 社が参加した「新スマートナビゲーションシステム研究会」にて、船内の異なる機器に係る情報統合を可能にする船内・船陸間情報インフラを世界に先駆けて構築するため作成した国際規格案が、この度 ISO 規格化されることが決定しました。本規格の制定により、海事分野でのデータ活用が促進されることが期待されます。本講演ではデータを取得し易い船舶に向けた標準技術の価値を紹介します。

<http://www.jsmea.or.jp/ssap/jp/>クロージング
Closing

一般財団法人日本海事協会 執行役員 開発本部長 有馬 俊朗 氏